

仕事のやりがいとは何か

峠岡 理沙

京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学講師

私は2020年10月に開催された第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会のキャリア支援委員会企画キャリアデザイン講座において、アレルギーのサブスペシャリティ形成について講演を行った。その講演の中で、研修医として勤務し始めてから現在までのそれぞれの時期に考えていた仕事の目標と実際について振り返った。このような講演の機会をいただき、自分のキャリアを考える時間をつくることができたことにとても感謝している。朝から夜まで医師として勤務し、毎日の大半で医療に携わる。ときには、家族などの周りに負担をかけることもある。人生の大部分を占める仕事のやりがいとは私にとってなんだろうか。経営学におけるキャリア論の大御所であるエドガー・シャインは、次の3つの問いについて省みることが、キャリアについて考える基盤を提供すると述べている。ほかの人がどのように思っているかではなく、自分が自分をどのようにとらえるかが大切のようだ。

エドガー・シャインの3つの問い

- ①自分は何が得意か
- ②自分自身はいったい何をやりたいのか
- ③どのようなことをやっている自分なら、意味を感じ、社会に役立っていると実感できるのか

この問いについて自分の場合を考えてみると、私は手先が器用ではなく、要領よく行動できるタイプではないが、物事をじっくり考えたり、人の話を聞くことは得意だと思って



Edgar Schein

いる。自分の得意だと思っているところを活かして、皮膚科医として、サブスペシャリティであるアレルギー専門医として、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患のために辛い思いをしている患者さんがご自分らしい生活を送ってもらうことに少しでも貢献できれば、やりがいに満ちた仕事だと思う。

忙しい毎日であるが、できるだけ充実した毎日を送ることができるように、ときには自分自身と向き合う時間をつくることは大切である。社会が変化する中、ストレスや疲労を感じながらひたむきに頑張っておられる方が多いと思う。日本皮膚科学会キャリア支援委員会では、ご自身のキャリアを考えるための企画を実施している。自分をみつめ直し将来の方向性をじっくり考えるきっかけにいただければ幸いである。

〈参考文献〉

- 1) 金井壽宏：働くひとのためのキャリア・デザイン，PHP 研究所，京都，2002